

平成30年7月25日
9号

保 健 だ よ り

二条保育園

手足口病

本日7月25日現在 1歳児 ことり組 1名

22日(日)に高熱と咳鼻水があった子どもが救急を受診され、園内でちらほら見られた溶連菌感染症やアデノウイルスは陰性、のどの風邪診断でした。その後も熱が続き、今朝、手足口に発疹が見られたのでかかりつけを受診されたところ手足口病の診断でしたとご連絡いただきました。お子さんの様子に注意してください。

京都府感染症情報センター 京都小児重症患者診療情報システム管理部 長村敏生Drより

エンテロウイルスが原因となる手足口病は4歳位までの幼児を中心に夏季に流行します。過去には2011年と2013年に大流行がありました。予後良好な疾患ですが、稀に急性髄膜炎や脳炎などを引き起こすことが知られており、死亡する例もみられます。

感染後3~5日の潜伏期間の後、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2~3mmの水疱性発疹が出現します。発熱はあまり伴わず、体温は38度以下のことがほとんどです。

特異な治療法はなく、発疹に対して外用薬は用いられません。水分補給と手洗いが重要です。治療後からも便からの感染がありえますので、排便後の手洗いを特に徹底してください。

『BeWell65』で対応をお願いいたします。登園届が必要です。

